



## ● チャンスをつかむ入試 ●

海外在住の小学生にとって、中学受験は一般的なものではありません。中学受験が盛んな地域に限られていますし、帰国子女のための特別枠が設けられる学校となりますと、更に少数となります。しかし、もしそのタイミングで、その地域に帰るのならば、大きなチャンスを得ることになります。首都圏にお住まいであったなら、いわゆる難関中学に合格するのにどれほどの努力が必要であるか、充分にご承知のことと存じます。その難関校の中には、海外から帰ってきた子供たちを、他の受験生とは別枠で受け入れてくれる学校があるのです。こう書くことで曲解して帰国卒受験は『簡単』『楽』だと受け止める方がいらっしゃるのですが、そこは誤解なさいでください。

平日は現地校に通い、更に、高度な国語力や算数力を身につけることができただけ時間のかかることかをお考え下さい。算数で申しますと、小4の段階で公立の小学5・6年生が習う計算や図形の求積問題はほとんど終わらせています。受験までに教科書には一切出てこない特殊算や本来中3で習う「相似」や高1でならう定理を使いこなせる力をつけるのが受験勉強なのです。国語も小6の文章は大人が読んで「こんな難しい文章をやっているの？」と皆さん口をそろえて仰います。帰国卒で受験する場合には、各中学校で定められた受験資格を満たす必要があります。その資格は『海外在住年数が継続して2年以上』『帰国後1年以内』が基本となります。中学校によりこととなりますので、各校へご確認ください。

また、英語ができる場合、帰国卒入試を有利にすすめることができます。ただ、英語圏から帰国した生徒がだれでも歓迎されるわけではありません。受験生の中でも競争がありますし、中学が求めている「英語力」と受験生の「英語力」がかけ離れている場合も少なくありません。現地校に通い友達もたくさんで、楽しそうに通っていただくとご父母の方はわが子の英語力に自信を持つものですが、それが入試で通用するかどうかは個人差の大きいところです。現地校に通っているだけで帰国卒入試のレベルの英語の力を身に付けられる生徒さんももちろんいらっしゃいますが、そのレベルには遠く及ばない生徒さんも残念ながら数多くいらっしゃいます。まずはお子様の英語の実力がどの程度であるかを的確に把握することが必要でしょう。

中学校が優遇してくれる『帰国子女』は、ある意味で日本の受験システムの外で、のびのびと育った子供たちが期待されています。といっても、準備が疎かになれば中学に入ってから学力差に悩むこととなります。受験勉強で「鍛えられた」同級生と一緒に勉強していくには、同等のレベルである必要はないまでも、その内容に通じている必要はあるでしょう。

12歳の少年少女に課すには過酷な受験競争に巻き込まれておらず、それでもしっかりと思考力や努力する力を身に付けている子供達。そのような子供たちの力になる、というのが、私たちの願いです。

【帰国卒を設けている学校で、英語が試験科目にない首都圏の学校例】  
海城・立教池袋・学習院・立教女学院・日本女子

## ◇ 帰国子女中学受験入試日程—帰国卒入試は11月下旬から

東京都や神奈川県の中一般入試の解禁日は、2月1日ですが、帰国卒入試は11月下旬から開始されます。1月31日以前に入試を行っている中学校は、海外・帰国生独自の入試を一般入試と切り離して実施していて、帰国生を積極的に受け入れようとしている学校の多くは、これにあてはまります。2月1日以降の一般入試と同じ日に実施する学校は、一般入試と同じ問題で多少の優遇措置を設定しているだけなので、一般卒に準じた難易度となります。それらの入試日程をうまく調整すれば、幅広く受験校を選択することができます。

## ● 帰国子女中学入試の傾向 ●

では、そんな帰国卒中学入試の現在の動向を見てみましょう。

## ● 首都圏帰国生入試概況—帰国卒の廃止と新設

例えば目白研心などが帰国卒を新設しましたが、…[続きを読む](#)

## ● 受験者数の動向

男子の攻玉社・女子の頌栄女子学園といった代表的な「帰国生の学校」を見ると、攻玉社で若干の増加、頌栄女子学園12月受験が微減と、昨年、今年と受験者数が安定してきています。一昨年来を例外として、長期的には受験者数減少の傾向にあるなかで、難易度を上げている学校とそうでない学校の明暗がはっきりしつつあり、帰国卒受験も一般受験と同じく、生き残り競争の様相を呈してきました。

それでは、日程別に、人気校の動向を見てみましょう。

◇ 12月以前: 学習院、立教池袋、実践女子学園、頌栄女子、立教女学院  
男子帰国受験の嚆矢となる…[続きを読む](#)

◇ 1月: 海城、聖光学院、攻玉社、洗足学園、白百合学園、学習院女子、成蹊、渋谷学園  
男子は7日～10日に人気校が集中し、短期決戦の様相を呈しています。  
…[続きを読む](#)

◇ -2月: 慶應湘南藤沢、公文国際、東京学芸大附国際中等教育  
慶應湘南藤沢が帰国生入試の精華であることは…[続きを読む](#)

※「…[続きを読む](#)」紙面のスペースにより、こちらに記載できませんでした。ご興味のある方は、ena国際部の『帰国子女入試とは』上で閲覧できますので、ご参照下さい。

## ● 直前講習担当が感じている帰国卒中学入試というもの ●

こと帰国卒中学受験に関しては、多角的に可否を判定しているということ、今一度考えなおしてみましょう。英語ができるということは、どういうことでしょうか？

日本の学校に進学する上で、英語が抜群であるとは、いったいどういうことなのでしょう。海外に何年も滞在しているのに、海外生活を否定している生徒を受け入れたいと考える学校は、どれほどあるのでしょうか。

学校が求める生徒像。これこそ学校案内などで、しっかりつかみたいことのひとつです。その視点から、帰国卒出願資格をしっかりと読み直しましょう。この学校は、海外からの受験生に何を期待しているのか。それが把握できれば、受験対策は見えてきます。

常に思う最高のパターンは、現地校に通いながら楽しく日本の勉強をするというもの。どちらもが苦痛・苦行になってしまわないように、周りの大人が様々なことを考えなければなりません。日本にいたら、中学受験は任意のものであるはず。公立中学に対して、満たされぬものがあるからこそ、満たしてくれる学校を受験するはず。そこに帰国子女特別入試というものが絡みます。受験資格や特異な入試科目。それらを十分に研究した上で、受験は決定されるべきではないかと思えます。もし帰国のタイミングが合えば、高校受験が可能なかどうか。そういうことも含めて、まず必要なのが「我が家の進路設計」ということになります。高校受験における帰国子女優遇措置は、大学受験に比べるとメリットは少ないですが、ただ、当然ではありますが、海外滞在期間が長くなれば長くなるほど日本語の力は加速度的に落ちていきます。日本語力維持の方法を、しっかり対策しておくべきではありません。

最悪なパターンは、ひとこと、「無理をする」ということです。例えば中学受験に向け、子どもに鞭を打ちすぎしてしまうこと。適度な負荷は必要です。ただ、現地校での生活に負担を感じている子どもに、更に課題を増やすとはいかがなものでしょう。最悪の場合、子どもの性格が歪んでしまうこともあります。大人におびえてしまうこともあります。例えば親の期待にこたえようとするあまり、悪い点におびえてしまうこともあります。そこで止まれば軌道修正もできますが、行き過ぎてしまった場合、カンニングなどに走り、実力は全く身に付かない子どもに育ってしまうケースも事実あるのです。学ぶ姿勢。謙虚の姿勢。これらを忘れてしまう子どもも見えます。海外生活という貴重な経験で得られるものは、本来「子どもに広い視野を身につけてもらいたい」「子どもに様々な経験をしてもらいたい」ということであつたはず。

中学入試に王道はありません。さらに帰国卒という特殊条件が加わります。準備方法はご家族ごとに違い、ある家庭の成功談が参考になるとは限りませんので、塾などその道の専門家にぜひ進路の相談してみてください。

(ena ヒューズトン校代表 池田 聡)